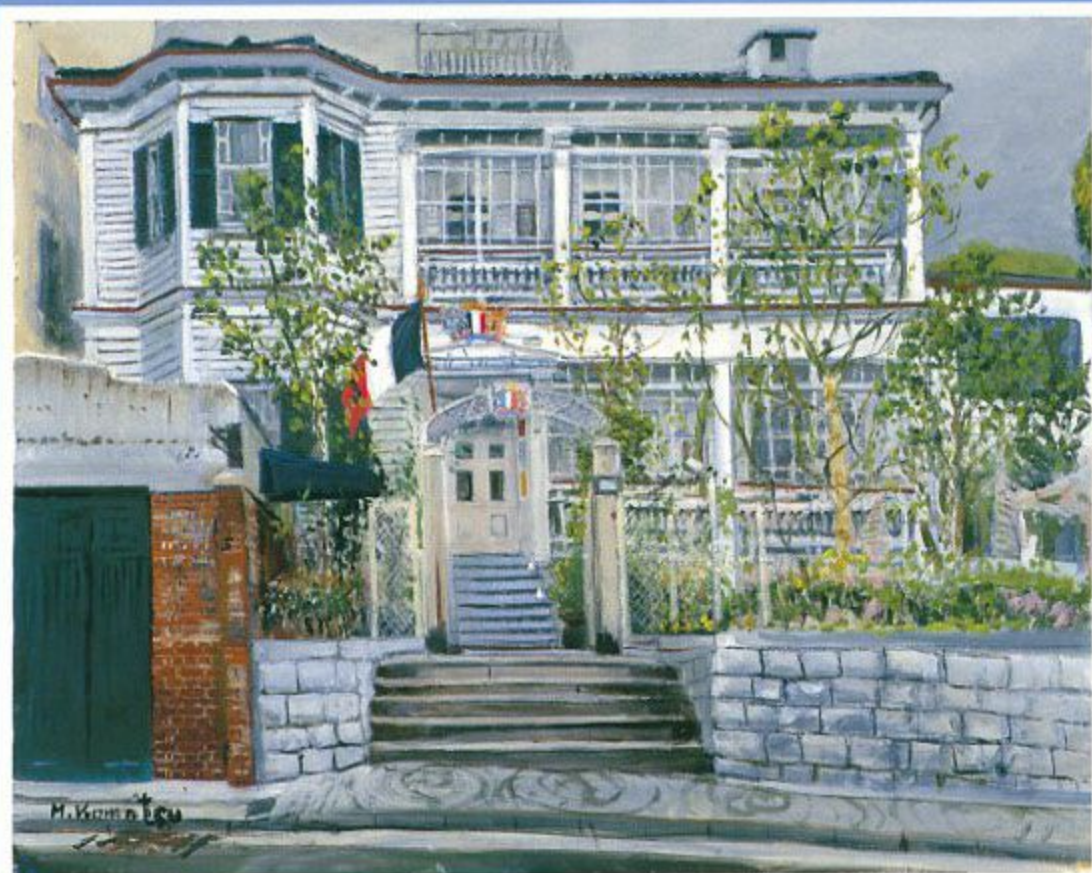


特別展 受贈記念

小松益喜展

1998 2月7日 土 - 4月12日 日

◀ 展示室 2・3 ▶



「神戸市立小磯記念美術館」1983年画

同時開催

収蔵作品展 VI

小磯良平の
作品を展示

◀ 展示室 1 ▶

講演会

3月1日(日)

午後2時～3時30分

当館2階 絵面学習室

定員80名(当日整理券を配布)

美術評論家 伊藤 誠氏
「異人館に魅せられた面家」

■解説会

毎週土曜日 午後2時～
(当館学芸員のスライドによる作品解説)開催時間/午前10時～午後5時
(入館は4時30分まで)

休館日/毎週月曜日

主催/神戸市

神戸市立小磯記念美術館

神戸新聞社

後援/サンテレビジョン
AM神戸

入館料

	税	高校 入学生	小学 中学生
当日	600	400	200
前売	500	350	150
団体	450	300	100

*団体は30名以上
前売は市内プレイガイドにて販売

神戸市立小磯記念美術館

Kobe City Koisō Memorial Museum

〒858-0092

神戸市東灘区向洋町中5-7

TEL (078) 857-5880

100
2004

特別展 受贈記念 小松益喜展



「電柱のある風景」1934年頃



「経軌道後の邸留地」1946年頃



「門老南民邸通門」1977年



「栄光教会とその周辺」1982年

小松益喜は、1904（明治37）年に高知に生まれました。1925（大正14）年に東京美術学校（現東京芸術大学）西洋画科に入学します。卒業後、一時郷里の高知に戻りますが、1934（昭和9）年に再度の上京を決意し、途中神戸に立ち寄ります。北野界隈の異人館群や旧居留地付近の異国情緒豊かな街並みに強く魅せられ、そのまま神戸に住み、制作を始めます。とりわけ異人館を多く描き、「異人館の画家」として広く親しまれています。

東京美術学校での先輩になる小磯良平とは、深い親交があり、何度も小磯のアトリエを訪れています。また、新制作派協会（現新制作協会）へは、小磯良平が猪熊弦一郎らと創立した1936（昭和11）年より出品を続け、1941（昭和16）年には会員に選ばれています。

上京途上の神戸との感動的な出会い以来、小松益喜は約60年の長きにわたり、北野界隈を中心に神戸の特色ある街並みをキャンパスに描き続けてきました。その中には、戦災や、戦後の都市開発、そしてこの度の震災で失われたものも多く、作品の中に古きよき神戸の面影を偲ぶことができます。

阪神・淡路大震災で被災された作家御本人より、平成7年度に作品約400点が、「復興への励みに」と神戸市に寄贈されました。この度本館で開催する特別展では、その貴重な資料の中から、神戸を題材にした作品を中心に、代表的な90点を紹介します。キャンパスの中で息づく神戸の街並みを、どうぞご覧ください。



「パンテオン近辺」1958-59年頃



「シユヱカ氏邸の庭より」1985年



交通/舟形戸留住宅駅・阪神魚崎駅より徒歩。
六甲ライナー「アイランド北口」駅下車、西へ徒歩すぐ

次回展覧会のお知らせ(予定)

'98 4月18日(土)～6月21日(日)

「特別展 田中忠雄回顧展」(展示室2・3)

田中忠雄(1908-1998)は、北海道生まれ。父が、11歳のときに、メソヂストン教会の牧師であった父の死により、神戸に転居し、小学校で小磯良平と知り合った。二人は、休日に行先に出かけるなど、絵を共に描くことになって親交を深めた。

このときの別荘では、1965年に帰郷の人となった田中忠雄の作品を展示し、あらためてその魅力を振り返ろうとする、没後初の回顧展開催です。

同時開催 「収蔵作品展」(展示室1)

小磯良平の作品を展示します。